

市民の力

ある町で、公園の維持管理を住民グループに委託することになった。数度のワークショップを重ね、管理組合を立ち上げ、責任者や役割分担を決めた。夏の芝刈り、冬の落ち葉集め、トイレや東屋の清掃、点検などを住民グループが行う。芝刈りには、乗用の機械を2台使うくらい面積の広い公園で、大きな樹木もかなりある。

問題になったのは、刈り取った芝や集めた落ち葉の処理である。家庭の芝であれば、2、3日乾かしてから集め、ゴミ袋に入れて燃えるゴミの日に出せば済むが、大きな公園なので芝の量が半端ではない。また、最近は、芝や剪定枝の家庭ゴミが増え、焼却場で処理ができなくなりつつある。刈った芝を公園内に野積みしておくにも限界があり、金はかかるが、業者を雇ってパッカー車で集め、産廃に出そうということになった。

が、しばらくして、ワークショップに参加していた市民の一人から電話がかかってきて、芝の処理問題を解決できそうだと言う。町中の酪農家にあたって、芝や落ち葉を牛小屋の敷き藁の代わりに使えないかとお願ひし、一軒、引き受けてくれそうな酪農家が見つかった。コンサルが机上で考えた案ではなく、市民の自発的行動から生まれたものなので、うまく実現しそうである。年配の女性の方の手柄だ。曰く「私はケチで、もったいない精神ですから。」

近所のおじさんが、ある市のオンブズマンの会合に出席して、その報告をしてくれた。その市では、市議会議員の縁者を外郭団体の職員にして、月50万とか60万とかの給料を払い、ボーナスも年4回出すようなことを長年続けてきたらしい。経理は極めてずさん。そもそも、付けるものも付けていないので、資料の提出を求められ、全部メイキングしたと思われるものが出てきたらしい。支払われた給与などのかなりの部分が、議員の選挙資金に回る仕組みである。・・・選挙資金と言っても、結局は、その一派のポケットに入るだけである。どこまでが正しい情報か分からないが、まあ、そんなことがまだまだあるのは確かだ。議員の政務調査費も同じで、本来その名の意味するところとは異なる目的で税金が使われている。

農村部でも、オンブズマンが力を付けてきた。先日、議会の傍聴人に見知らぬ人があまりに多かったので、議会で、あんたらはオンブズマンか、と議員が議会事務局員から知らないが、傍聴人とひとめしたという話を聞いた。もはや、お粗末であることを隠せなくなってきた。

この手の議員は、やがて追い出されるだろう。今回の統一地方選で、その動きが目に見えて出てくると思われる。そう期待したい。今日、子飼商店街の裏路地で、知り合いのおばちゃんたちが立ち話をしていた。「なんさま議員がお粗末。ありゃもう替えにゃいかん。だいたい私たちが悪かつよ。当選させとっとだけん。今度は切らにゃ。そして4年後にも、もう一回。」

建築デザインの定石に、廊下を暗くしておいてその先の居室を明るくするというのがある。先が明るければ、そこに期待をもって、行ってみたいくなる。このことは、建築だけでなく、経済にも、まちづくりにも、人生にも当てはまる。今の世の中、閉塞感があり、殺伐としてきて、ふっと「雷（いかずち）を打ち出す力があるなら打ち放ちたい」という気分になってしまうことがある。しかし、しっかりと家庭や家計を維持してきたおばちゃんたちが、芝草の処理と酪農家を結びつけ、ルールに則って議会や行政をチェックし、変えようとしている。そうした建設的で穏やかな市民の力こそ光だと思ふ。そこに期待して、行ってみたいと思ふ。